

第2学年 生活科学学習指導案

日 時 平成30年6月27日（水）第5校時
対 象 第2学年2組 30名
授業者 M. M.

1 単元名 「つくって遊ぼう」

2 小単元名 「つくって遊ぼう」

3 小単元の目標

身近にある物を使って遊びや遊びに使う物を工夫して作り、そのおもしろさに気付き、みんなで遊びを楽しむことができるようにする。

4 単元の評価規準

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気づき
① 身近な物を利用した遊びに関心をもって遊ぼうとしている。	① 身近な物で動くおもちゃを作るために、考えたり工夫したりしている。	① 身近な物を利用して遊べることに気付いている。
② 身近な物を使って遊びや遊びに使う物を作ろうとしている。	② おもちゃの作り方や遊び方を相手がわかりやすいように表現している。	② 遊びの楽しさや遊びを工夫したり遊びを作り出したりする面白さに気付いたりする。
③ 友達と関わりながらみんなで楽しく遊ぼうとしている。	③ 遊びを工夫したり、友達と関わって遊んだりしたことをふりかえり、自分なりの方法で表している。	③ 友達と関わって遊ぶ楽しさ、友達の良さに気付いている。

5 単元について

(1) 新学習指導要領との関連

本単元は、新学習指導要領の次の内容を受けて設定した。

内容（6）

身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して、遊びや遊びに使うものを工夫して作ることができ、その面白さや自然の不思議さに気付くとともに、みんなと楽しみながら遊びを造りだそうとする。

(2) 教材について

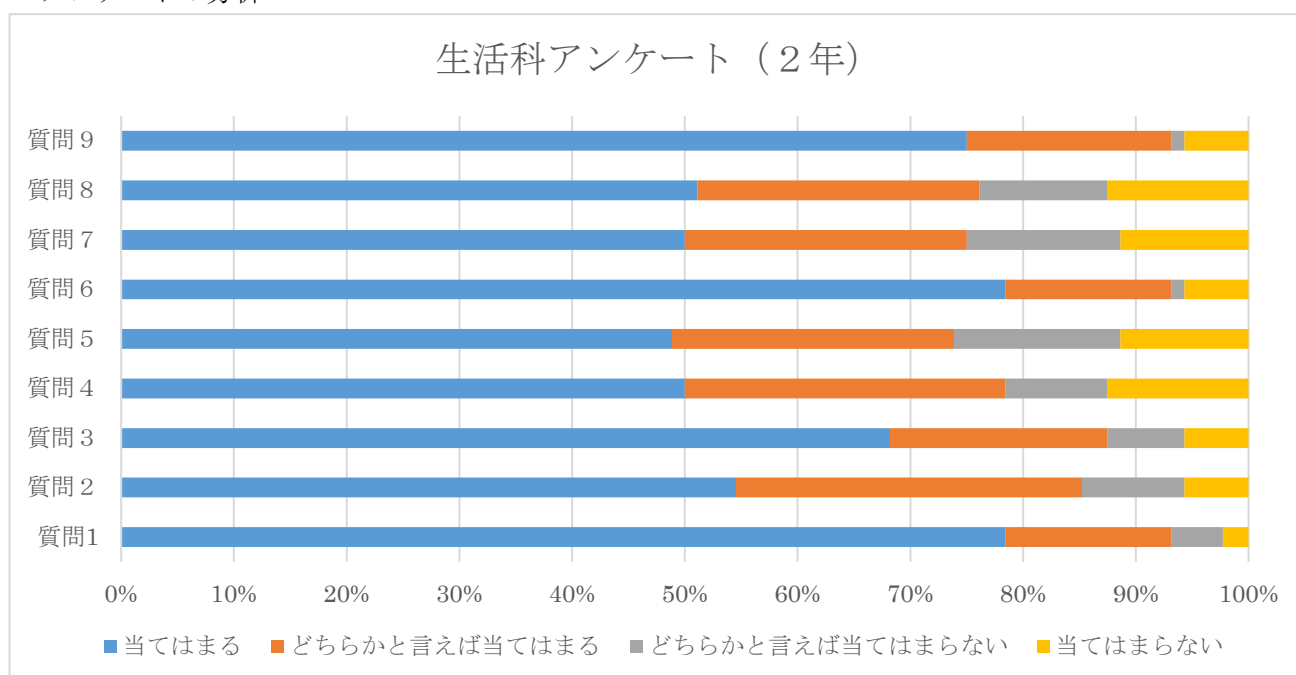
本単元は、学習指導要領生活科の内容（6）「身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して、遊びや遊びに使うものを工夫して作ることができ、その面白さや自然の

不思議さに気付くとともに、みんなと楽しみながら遊びを造りだそうとする。」を受けて設定したものである。

本単元は、身近にあるものを使って、遊びに使う物を工夫して作ったり、遊び自体を工夫したりするものである。また、友達と遊んだり教え合ったりしながら、自分なりに工夫することを通して、動くおもちゃの面白さに気付くことができるとともに、遊びを工夫しながら、みんなで遊ぶ楽しさを味わうことができる。自分の創意を生かし、自分の手でおもちゃを作り上げた満足感を味わうことで、さらに自分の生活を豊かにしていこうという実践的な態度が育つと考えられる。

(3) 児童の実態

- ・アンケート実施（対象 2 年 1 組 2 9 名 2 年 2 組 3 0 名 2 年 3 組 2 9 名 実施日 6 月 1 4 日）
- ・アンケートの分析



- 生活科の学習が楽しい、どちらかと言えば楽しいと感じている児童が90%以上いる。
- 友達と協力して学習することが好き、どちらかと言えば好きという児童が90%以上いる。
- 友達の発表を見たり聞いたりすることが好き、どちらかと言えば好きという児童が90%以上いる。
- 自分の考えをノート等にまとめることが好きじゃない児童が約30%いる。
- 自分の考えや調べたことを発表することが好きじゃない児童が約30%いる。

以上のアンケート結果から、2年生は、生活科の学習が好きで楽しいと感じている児童が多いことがわかる。また、友達と一緒に協力したり、友達の発表を聞いたりすることも好きで、進んで活動を行っている。その一方で、自分の考えを書いてまとめたり、自分の考えを発表したりすることが苦手と感じている児童がいることもうかがえる。生活科の学習が楽しく好きだという意欲を継続させ、より高め、そこから自分の考えをまとめたり発表したりすることも好きになるような手立てが必要であると考えられる。自分の考えをまとめたり発表したりするツールとして、ICTを効果的に使用していきたい。

6 研究主題に迫るための手立て

研究主題

21世紀型の学力を育む学習指導法の研究 ～ICT機器の効果的な活用を通して～

目指す児童像

身近にいる人や社会・自然に興味をもち、自分の考えたことを表現したり伝え合ったりする児童

(1) 教材・教具の工夫

本単元は、身近にあるものを使って、遊びに使うものを工夫して作ったり、遊び自体を工夫したりするものである。普段は捨ててしまう身近にあるもの（牛乳パックやトイレットペーパーの芯など）に注目させ、それを使って楽しく遊べるおもちゃは作れないかと児童が進んで調べたり考えたりさせる。その後、おもちゃの作り方を友達に紹介する活動を行う。それを通して、動くおもちゃの面白さに気付くことができるとともに、遊びを工夫しながらみんなで遊ぶことができる。自分の創意を生かし、自分の手でおもちゃを作り上げた満足感を味わうことで、さらに自分の生活を豊かにしていこうという実践的な態度が育つと考えられる。

(2) 学習活動の工夫

第1時で、全員でパッチンがえるを作り、動くおもちゃを作って遊ぶことによって、身近なものを使って作る動くおもちゃに対する興味を高めるようにする。その後、自分で作ってみたいおもちゃを家庭学習で考えさせる。何日間か期間をおき、じっくり調べたり考えたりできるようにする。そして、作ってみたいおもちゃを持ち寄り、グループごとに1つのおもちゃの作り方・遊び方を友達に伝えることを目標に「おもちゃ紹介」の計画を立てる。計画書を書き、おもちゃ作りの手順を写真に撮り、つなげてプレゼンテーションを作成する。「聞く人によりわかりやすく伝えるにはどうすればよいか」を考えさせ、プレゼンテーションにて表現できるようにする。プレゼンテーションを発表し合う際は、教室内に5つコーナーを作り、それぞれ発表するようにし、発表を聞いたあとは実際におもちゃを作ったり遊んだりする時間を設け、発表をしたり聞いたりすることがまた次のおもちゃ作りに対する意欲に繋がるようにする。最終的には学年で発表し合い、学年全員でおもちゃ作り、遊ぶことを楽しめるようにする。

(3) ICT機器活用の工夫

本単元では、主に児童が友達におもちゃの作り方と遊び方を紹介するツールとしてICT機器（タブレット）を使用する。おもちゃを作る過程を写真に撮り、それをつなげて見せて友達に紹介することによって、おもちゃの作り方をわかりやすく人に伝えることができるようにする。写真を撮り、必要な写真を取捨選択し、よりわかりやすく表現することが出来る力をつけていきたい。そのため、発表で使用する写真は5枚までとする。発表する際は、5つ設けたコーナーにそれぞれタブレットを設置し、コーナーに分かれて発表したり聞いたりするようにする。自分の考えを写真に撮ったり文にしたりする中で、自分の考えを伝えたり表現したりできるようにしたい。

7 小単元の指導計画（全10時間）

	時	○学習活動	◇支援、手だて【評価】
第一 次	1	<p style="text-align: center;">パッチンがえるを作ってみよう</p> <p>○牛乳パックと輪ゴムを使ってパッチンがえるを作る。 物を使って作るおもちゃの楽しさに気づき、もっと他に作ることはできないか考える</p>	<p>◇パッチンがえるを見せ、「作ってみたい」という意欲をもたせる。 ◇作ったかえるで自由に遊ばせる。 ◇牛乳パックや輪ゴム、ペットボトル、ペーパーの芯など、リサイクルの物で作れるおもちゃを考えさせる。 【関心・意欲・態度①】</p>
	2	<p style="text-align: center;">作りたいおもちゃを出し合おう</p> <p>○みんなで作りたいおもちゃを出し合う。</p>	<p>◇事前に家庭学習で考えさせておき、一人一人がアイデアを出せるようにする。 ◇全員で「学校でグループになり作れるか？作れないか？」を考えさせる。 ◇プロジェクターに児童が考えたおもちゃを書いたノートを写し、それを見ながら考えさせる。 【関心・意欲・態度②】 【思考・表現①】</p>
第二 次	3 (2-1) 4	<p style="text-align: center;">おもちゃしょうかいのけいかく書をつくろう</p> <p>○グループごとにどんなおもちゃを作るかを決める。 ○一人一人でおもちゃ紹介のための計画書を作る。 ○個人で書いたものをもとに、グループで計画書を作る。</p>	<p>◇グループで1つ作るおもちゃを決める。 ◇自分たちの作るおもちゃの作り方を他の人にも紹介するという今後の流れを伝える。 ◇どんな写真を使いたいか、写真にどんな言葉を入れたいか、どんなことを話し言葉で伝えたいかを計画書に書くように伝える。まずは個人で計画書を作り、その後グループでひとつ計画書を作る。 【思考・表現②】</p>

	<p>5 (2-3)</p> <p>6 本時 (2-2)</p>	<div style="border: 1px solid black; text-align: center; padding: 5px;">おもちゃしょうかいのじゅんぴをしよう</div> <p>○おもちゃの作り方と遊び方を紹介するために、作り方の手順をタブレットで写真を撮る等の準備をする。</p> <p>○おもちゃの作り方と遊び方の紹介をする練習をする。</p>	<p>◇作り方を紹介する方法としてタブレットを利用することを確認する。1時で作ったパッチンがえるの作り方をタブレットで紹介し、イメージをもたせる。</p> <p>◇各グループ1台タブレットを使用できるようにし、必要な写真を撮りためていくよう伝える。</p> <p>◇写真を見せながら作り方を説明できるようにする。</p> <p>【思考・表現②】</p>
<p>第三 次</p>	<p>7</p>	<div style="border: 1px solid black; text-align: center; padding: 5px;">おもちゃしょうかいをし合おう</div> <p>○グループごとにおもちゃ紹介をする。5グループごとに、前半に発表するグループ・聞くグループ、後半に発表するグループ・聞くグループと分ける。おもちゃ紹介ではグループごとにタブレットを1台ずつ使用する。</p>	<p>◇教室内に5つのコーナーを作る。</p> <p>◇各班にタブレット、実物のおもちゃを用意させる。</p> <p>◇前後半に分け、どの児童も発表側・聞く側と両方行うようにする。</p> <p>【思考・表現②】</p> <p>【気付き①】</p>
	<p>8</p>	<div style="border: 1px solid black; text-align: center; padding: 5px;">作りたいおもちゃを作ってみよう</div> <p>○前時で作り方や遊び方を聞いたおもちゃで作ってみたいものを作る</p>	<p>◇いろいろな材料を多数用意しておき、自由におもちゃを作れるようにしておく。</p> <p>【気付き②】</p> <p>【関心・意欲・態度②③】</p>
	<p>9 10</p>	<div style="border: 1px solid black; text-align: center; padding: 5px;">おもちゃはっぴょう会をしよう</div> <p>○学年でおもちゃ発表会をする。クラスごとに発表をする。</p>	<p>◇体育館にて、8つのコーナーを作り、クラスごとにおもちゃの作り方を発表する。</p> <p>◇8つのタブレットを用意しておく。</p> <p>【関心・意欲・態度③】</p> <p>【思考・表現③】</p> <p>【気付き③】</p>

8 本時の指導（6時間目／全10時間）

（1）目標

おもちゃの作り方や遊び方を相手がわかりやすいように表現しようとする。

（2）本時の展開

<p>○学習活動 T：教師の発問 C：予想される児童の反応</p>	<p>◇指導、支援 ☆ICT 機器の活用ポイント 評価【評価規準】（方法）</p>
<p>○本時のめあてを確認する。 T：みんなでおもちゃ紹介をし合うための準備をしています。今日も進めていきます。</p>	<p>◇本時のめあてを確認する。</p>
<p>おもちゃしょうかいのじゅんびをしよう</p>	
<p>T：各グループ、おもちゃ紹介に使う写真は5枚まででしたね。6枚以上にならないように、写真をしっかりと選びましょう。</p> <p>○タブレットを使用し、各グループでおもちゃ紹介の準備をする。 T：グループごとに作業を進めて行きましょう。 C：どの写真を使おうかな。 C：この写真がわかりやすいと思うよ。 C：もう1枚写真を撮ろう。 C：この写真に合う文章は何だろう。 C：やはり計画書に書いた通りの文章で良さそうじゃないかな。 C：文字は赤色の方が見やすいかな。 C：文字はもう少し大きい方がいいかな。</p> <p>T：みなさん少し手をとめてください。○班が上手に作っています。 C：なるほど。あんな感じでコメントを入れるといいね。 C：ぼくたちのグループも真似してみよう。 T：では、作業を再開してください。</p> <p>C：できた！ C：よし、じゃあ発表の練習をしよう。</p>	<p>◇写真は5枚以内でおさめることを改めて確認する。</p> <p>☆各グループ1台ずつタブレットを渡す。 ☆アプリ「ロイロノート」を使用し、プレゼンテーションを作成する。 ☆写真を撮ったり写真の説明をする文章を打ち込んだりするよう伝える。 ◇事前に作成した「おもちゃ紹介計画書」をもとにしてプレゼンテーションを作成するようにする。</p> <p>◇作業開始15分ほどしたら、上手くできているグループのプレゼンテーションを少し紹介し、他のグループが参考にできるようにする。 ☆完成したグループはタブレットを使いながら、発表の練習をするよう伝える。</p>

<p>○各グループの進行状況を確認する。</p> <p>T: みなさん、時間ですので、そこまでで手を止めてください。各班どこまで進んだのか教えてください。</p> <p>C: 1班です。完成しました。</p> <p>C: 2班です。写真の3枚目まで文字を入れられたけれど、4枚目が入れられませんでした。</p> <p>C: 3班です。表紙が完成していません。</p> <p>T: では、発表の練習までできていた○班のプレゼンテーションを1枚分だけ見せてもらいましょう。</p> <p>T: 今日の学習を振り返り、感想を伝え合いましょう。</p> <p>C: 写真に文字を入れるのが難しかったけど、協力してできました。</p> <p>C: 完成して嬉しいです。</p> <p>C: 早くみんなの発表を聞きたいです。</p> <p>T: では、次回は今日作ったプレゼンテーションを使って、おもちゃ紹介をし合いましょう。</p>	<div data-bbox="815 253 1422 562" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【評価規準】(方法)</p> <p>A: おもちゃの作り方や遊び方を相手がわかりやすいように工夫して進んで表現している。(観察・iPad)</p> <p>B: おもちゃの作り方や遊び方を相手がわかるように表現している。(観察・iPad)</p> </div> <p>◇各班の進行状況を全体で確認する。まだ終わっていない班が多ければ、さらに時間取ることも検討する。</p> <p>◇完成した班のプレゼンテーションを1枚分だけ発表させる。他の班にも発表のイメージをもたせる。</p> <p>◇今日の学習を振り返った感想を全体で共有し、次時の学習につなげる。</p> <p>◇次時は、クラスでおもちゃ紹介をし合うことを伝える。</p>
---	--

※授業を見る視点

①教科の観点

- ・友達におもちゃの作り方をわかりやすく伝えようとし、活動しているか。

②ICTの観点

- ・おもちゃの作り方を紹介するためにタブレットを使うのは適切だったか。

(3) 板書計画

めあて おもちゃしょうかいのじゅんびをしよう

- ① シャしんをとる←つかうシャしんは5まいまで
- ② シャしんにコメントを入れる
- ③ ひょう紙を作る
- ④ シャしんをつなげる

プロジェクター

日 時 平成30年6月25日(月)
 対 象 第2学年3組 29名
 授業者 Y. M.

本時の指導（5時間目／全10時間）

(1) 目標

おもちゃの作り方を、写真を使ってわかりやすく表現しようとする。

(2) 本時の展開

<p>○学習活動 T: 教師の発問 C: 予想される児童の反応</p>	<p>◇指導、支援 ☆ICT 機器の活用ポイント 評価【評価規準】(方法)</p>
<p>○本時のめあてを確認する。 T: みんなでおもちゃを紹介し合うための準備をしています。今日も進めていきます。</p>	<p>◇本時のめあてを確認する。</p>
<p>めあて シャしんをつかってわかりやすくしょうかいするじゅんびをしよう。</p>	
<p>T: 各グループ、おもちゃを作りながら、紹介に使う写真をとります。計画書を見て、どんな写真が必要か、確認をしましょう。</p> <p>○タブレットとおもちゃの材料を準備し、各グループでおもちゃを作り、紹介の準備をする。 T: グループごとに作業を進めて行きましょう。 C: ここをアップにして写真を撮ろう。 C: ここは写真がなくても分かるから、違うところで写真を使おう。 C: ここも写真を使わないと分かりにくいね。</p> <p>T: みなさん少し手をとめてください。○班が上手に写真を撮っています。 C: なるほど。アップにした方が分かりやすいね。 C: ぼくたちのグループも真似してみよう。</p>	<p>◇写真は4～5枚必要であることを確認する。</p> <p>☆各グループ1台ずつタブレットを渡す。 ☆アプリ「ロイロノート」を使用し写真を撮る。 ☆タブレットを使う順番を決めるなどして、グループで協力して活動できるように支援する。 ☆写真は後で消去したり、使用しなかったりすることもできるので多めにとって良いことを伝える。 ☆分かりやすくするために、計画書を変更することも可能であることを確認する。(使用する写真の枚数は変えない。)</p> <p>◇事前に作成した「おもちゃ紹介計画書」をもとにしておもちゃを作りながら、プレゼンテーションに使う写真を撮ろうとしている。</p> <p>◇作業開始15分ほどしたら、上手くできているグループの写真を紹介し、他のグループが参考にできるようにする。 ☆完成したグループは説明の文と合っているかを検討させる。</p>

<p>T:では、作業を再開してください。</p> <p>C:できた!</p> <p>C:よし、写真をつなげて見てみよう。</p> <p>○各グループの進行状況を確認する。</p> <p>T:みなさん、時間ですので、そこまでで手を止めてください。各班どこまで進んだのか教えてください。</p> <p>C:1班です。完成しました。</p> <p>C:2班です。あと1枚が撮れていません。</p> <p>T:次の時間はそこから始めましょう。</p> <p>T:今日の学習を振り返り、感想を伝え合いたいしょう。</p> <p>C:写真を撮るのが楽しかった。</p> <p>C:○君ばかり、タブレットをつかっていた。</p> <p>C:発表するのが楽しみです。</p> <p>T:では、次回は今日撮った写真から4枚を選んで文字を入れていきましょう。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【評価規準】(方法)</p> <p>A:おもちゃの作り方を相手にわかりやすい表現するために工夫して写真を撮っている。(観察・iPad)</p> <p>B:おもちゃの作り方をしょうかいするための写真を撮っている。(観察・iPad)</p> </div> <p>◇各班の進行状況を全体で確認する。まだ終わっていない班が多ければ、さらに時間を取ることも検討する。</p> <p>◇今日の学習を振り返った感想を全体で共有し、次時の学習につなげる。</p> <p>◇次時は、写真を選び、文字をいれて行くことを伝える。</p>
---	---

※授業を見る視点

①教科の観点

- ・友達におもちゃの作り方をわかりやすく伝えようとし、活動しているか。

②ICTの観点

- ・おもちゃの作り方を紹介するためにタブレットを使うのは適切だったか。

(3) 板書計画

<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>めあて しゃしんをつかってわかりやすく しょうかいするじゃんびをしよう。</p> </div> <p>おもちゃをつくりながらしゃしんをとる →つかうしゃしんは<u>5まいまで</u> <u>おおめにとってもよい。</u></p>	<div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <p>プロジェクター</p> </div>
--	--

9 成果と課題（○成果 ▲課題）

- 企画書を用意していたことで、ロイロノート活用の一助となり、相手への伝わりやすさなどに集中して児童が作成できていた。
 - iPad を使用したことで、児童が意欲的に授業に参加できていた。
 - 板書を厳選することにより、児童が本時の学習で何を意識すれば良いのか明確になっていた。
 - 授業の途中でグループの良いところを紹介したことによって、良いところを共有でき、自分たちのプレゼンテーションに他のグループの良さを取り入れることができていた。
 - 授業の終わりに次時の活動を確認することによって、先の見通しをもつことができていた。
-
- ▲ プレゼンの準備としてロイロノートを活用していたが、発表媒体が ICT 機器でなくてもよかった。
 - ▲ 児童の使いたい欲求が強く、班によっては使用している児童が偏っていた。
 - ▲ 実際におもちゃを用意した意図がわからなかった。おもちゃをどうするのかの約束なども明示できているとよい。
 - ▲ 写真を使うことによって説明の中で「このように」という言葉を用いていたが、「このように」という言葉では伝わらない部分もあった。文章を入れる際、どのような言葉を使えばよいかという指導も必要である。
 - ▲ プレゼンテーションを作成する際、文字色で見えにくい色があった。プロジェクターで教えて共有できるとよい。
 - ▲ 3人グループで作業をしたが、タブレットが見えにくそうだったり、作業しにくそうにしていたりする姿が見られた。机の配置を工夫するとよい。

<困ったこと>

- ・タブレットの充電の不足。充電に時間がかかる。
- ・児童によるタブレットを操作する能力の差。文字入力等にかかる時間が人によって大分違う。
- ・タブレット操作の技術を習得するための時間が必要である。（生活科の単元の時間だけではまかなえなかった）